

2022年4月1日(金) リモート開催

## ■会長／北川 和彦 ■幹事／飯田 兼光

◆司会＝玉本 広人 SAA

◆ゲストビジター＝本日はいらっしゃいません

◆会長告知・北川和彦会長＝今日から新しい年度が発足したわけですが、今日の新聞をみていたら、諏訪の裁判所に裁判官、書記官、調査官それぞれ女性の方が転勤してきました。家裁の調査官は家庭裁判所の様々な問題を当事者から聞いて、裁判所に持ち上げて裁判官が判断してくということになっているのですが、今度女性が入られ、諏訪の裁判所も女性の職員の数が増えてきました。裁判所は比較的敷居が高く堅苦しい役所なのですが、何とか柔らかい雰囲気になってくれればなということをお待ちしております。

御柱祭・上社の山出しはいよいよ明日、明後日からですね。これも1日だけでトレーラーで、御柱屋敷まで運ぶということが今日の新聞で出ましたけれども、5月の里曳きはどうなるか詳細は未定ということです。下社の山出しは4月8・9日。私の地区は下社なのですが、御柱委員よると計画を立てる部分が非常に難しいというようなことを言って、関係者はお祭りの実行に大変神経を使ってご苦労されていると感じております。第6波がまだ続いているとか第7波が始まるとか、それからBA-2という変種株もある。またこれを判断してもらうということで、まだまだ気を抜けない状態が続いております。

昨日、出張で東京に行きましたが、もう既にコロナ前のような人の流れでびっくりいたしました。デパートやいろいろな施設も結構人が蔓延していて、びっくりしました。諏訪はまだ高い感染レベルが当分続いていきます。4月21日の諏訪湖ロータリークラブとの合同花見例会はぜひやりたかったわけですが、このままでは中止せざるを得ないということです。桜ですが、東京の日比谷公園は既に散り始めています。高島城は4月の9日が五分咲きで、14日が満開ということで、それを期待したいと思います。

高島城といいますと、昨日の長野日報で「諏訪高島城保存協力会」が30日に設立されたと報道されていました。高島城は昭和45年に再建され、令和2年に50周年を迎えましたが、高島城の保存とか活用を考えていく、いずれは建て替えに向けた機運を盛り上げていくというのが、この協力の趣旨だそうです。理事に高見俊樹さんの名前が出てきます。諏訪市役所を退職した後は「大昔調査会」という一般社団法人を設立され、諏訪地域の縄文遺跡、歴史的な建造物の調査保存をしている会です。後山の小学校を壊されたときにも、調査をして本にしていますけれども、この会が作った「高島城のすべて」という冊子が今回の協力会のきっかけになったということをごさいます。この大昔調査会というのは非常にユニークな活動をしてきています。高見さんは神宮寺の仏像が一斉公開されるプロジェクトを始めていますけれども、その仕掛け人であり、退職後には水を得た魚のように大活躍するというので、この

高見さんやその大昔調査会の活動をぜひ別の機会にお話をさせていただきたいと思っております。

それから地区大会ですけれども、開催の最終決定の日程を4月20日に延期するというメールが来ております。とりあえずはリアルで開催することで、ぜひ多くの方に参加していただきたいと思っております。今日は社会奉仕委員会の担当例会で、高橋委員長にお願いしたいと思います。

◆幹事報告・飯田兼光幹事＝北川会長よりウクライナ人道支援について、65周年でもあり寄付を行ってはどうかという提案がされました。会長の方で前例及び先輩方に確認し、個人ではなく諏訪ロータリーとして実施方向で検討することとなりました。周年誌のデータ化について、10周年から65周年まで周年誌をデータ化してはどうかという提案がなされ、小針会員に見積もり依頼をさせていただいております。先ほど会長からも地区大会の参加申し込みの人数をご報告いただきましたが、現在15名のメンバーから申し込みをいただきました。ありがとうございます。今月のロータリーレートは122円です。例会終了後、理事会を開催いたしますので理事メンバーの皆さん、お願いいたします。幹事報告は以上です。

## ◆委員会報告

●65周年実行委員会 宮坂康弘記念誌部会長＝65周年の記念



誌は、おかげさまで皆さんから写真の提供いただき、全て揃いまして、原稿の方も9割がた終わっております。原稿をジェイ・キッズさんの担当者にお渡しして作成をしていただき、順調に進んでおります。また校

正等でまたご協力いただく会員の皆さんいるかと思いますが、よろしくお願いたします。特に思い出懇談会等、ご不便をおかけしまして、チェックをいただきましてありがとうございました。以上です。

●65周年実行委員会 古屋了実行委員長＝先日仙岳さんで、思い出懇談会を開催いたしました。三井章義会員、有賀昭彦会員、藤森郁男会員、森幸俊会員、山崎晃会員に出席いただきました。ちょうど35年前が創立30周年で、35年前に皆さんがどんな思いで先輩と関わり、どんなインスピレーションを抱いてきたのかということをお伺いしました。参加した一番若いメンバーは善治直樹会員で35年後には80歳くらいになるそうです。その35年後に諏訪クラブが創立100周年を迎える時に長老としておられることを想定して玉本広人座長のもと、先輩のお話を承るという会でありました。

その中で、記念誌に残すべきお話がたくさんありまして、藤森会員が話してくださったこととして、諏訪クラブが創立した時には、商業中心の街から製造業が豊かになってきた。それで商業をやっている大店の大旦那が軸となり八十二銀行さんが監事になった。諏訪クラブの役割として、製造業のオーナーさんをまち作りの中に巻き込んでいくという話を伺いました。それと先輩それぞれの役割がありまして、特に軸となり様々な価値観の方々を集わせる力を発揮したのが寺島先生だった

という事。それからロータリーとして、地域の役に立つにはどうしたらいいかという課題を解決するのに力を発揮されたのが藤原さん。それから最近になりますけれども、日本という国を超えて、社会課題を解決した日本が、今度世界に目を向けて目いくという役割を果たされたのが、安川さんでした。

そういう方々の人間性にほだされて、諏訪クラブの軸になってきたのが 30 代からロータリーに入られて昨年、日本の 100 人のロータリアンとして記念の雑誌にも掲載された三井会員です。また地区大会や組織という点で、人と関わっていく中で勉強させてもらったという森さんのお話など色々出てきました。有賀会員からは皆さんに対して苦言と言いますか、実際にロータリーが活動していく上で大事なのは各委員会がやってきた引き継ぎで、これをしっかり行わないと委員会の活動が形骸化してしまうと話されました。前にやってきた人がどんなものを大事にしてきたのか、委員会の引き継ぎがロータリーの継続性を保っていく上ですごく大事だと、こういうお話をされたのがとても印象的でした。

最後の場面では、善治会員が我々ロータリアンはどんな事を大切にしていっていいかという質問を虚心坦懐にされたのですが、そのときに先輩の表情がぱっと変わりました。三井会員の言葉を借りますと「ロータリーの社会奉仕の目的というのが微妙に変わってきた。奉仕するものが最もよく報いられるところから超我の奉仕いうところへ変わってきた。そのどちらも大事にしていくべきだと、それを忘れちゃいけない」という話をされたその時の先輩方の表情がとても印象的でした。

それから思い出懇談会が始まる前に少し時間があり、森会員や有賀会員が岩波寿亮会員のお父さんを取材されたドキュメンタリー映画を見られ、そのときの思いから語られたことがあります。森さんご自身のお父さんが戦地に行かれ、そこから帰ってこられて、戦後を生きたときの思いを話されました。有賀会員は本当に記憶に残っている幼少期に東京大空襲があり、疎開してこっち見えるんですけども、大空襲で焼け野原になったときの東京で苦労したその思い、その時代の 4 年間はもちろん自分も本当につらい思い、語りたくない思い、つらい思いがあったのだと、こういうような話をされたことも、非常に印象的価値ある仙岳の一夜でした。新型コロナウイルス感染対策が必要だったので、弁当持ち帰りで会食ができなかったんですけども、この事をコロナが終わったらもう一度会食で語り合うことができたなら、価値あるひと時にまたなるんだろうなと思っています。この思い出懇談会を受けて北川会長は、これを先輩たちの思い出にするのではなくて、我々がこれからどういう活動をしていったらいいのかっていうことを話しあう機会が必要だという投げかけをしてくださいました。

6月5日には65周年記念式典を開催する予定ですが、岩波会員から諏訪の未来を語る人から話を聞きたいとお話がありまして、養命酒製造株式会社の川村会長さんが岡谷の出身で東京から諏訪を見ていただいておりますので、お話を伺い、そして未来を展望しようというふうに思っております。

こういう状況下ですので、感染対策しながらもおそらくリモート開催という可能性も大きくあります。会場としてお借りするぬのはんは、私もそういう仕事しておりますからよくわかるのですが、仕事を受けるにあたり非常に困難なことがあります。そのことも配慮しながら、リアルでどうするのかリモートだったらどうするのかということも、よく協議しながら取り組みを考えていきたいなというふうに思っております。

#### ◆今後の例会日程

4月 8日	金	クラブフォーラム(卓話) リモート開催
4月 21日	木	合同お花見例会 中止
4月 22日	金	クラブフォーラム(ロータリー) リモート開催